

令和5年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（最終）	評価 値	総合評価	関係分野	
重点目標								
1 どのように学ぶか								
(1) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、地域とのつながりを意識した社会貢献活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、玉野市内の中学校を中心に3年生向けの面接マナー講座を3校、2年生向けのチャレンジワークマナー講座を6校に実施した。 地域連携室が主体となり、小学校へのスポーツ教室、生徒会が中心となったスマホ教室を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座の継続。昨年度実施校数を上回る。 新しい出前講座の企画と実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問を実施する中で、本校の出前講座の宣伝を実施し、未実施の中学校への波及をする。 機械科を中心に「ものづくり」「プログラミング」に関する出前講座の企画を立てる。また、小学校への実施を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、中学2年生を対象としたチャレンジワーク講座に6校、中学3年生対象の面接マナー講座に8校の中学校で実施した。本年度はチャレンジワーク講座を7校、面接マナー講座に10校で実施した。新規で実施した中学校もあり、開催を希望する中学校は増えている。 機械科と協力し「ものづくり講座」を日比中・玉中で実施した。ロボコンに出場したロボットに触れたり、機械科の授業を紹介したり、中学生には好評を得た。 	A		総務課	
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりコロナの状況も改善し、地域貢献活動も徐々に行われるようになってきた。昨年度は、のべ286名の参加があった。 昨年度の学校自己評価アンケートで「主体的に地域貢献活動に参加している」「地域と協力して取り組んでいる」の生徒の肯定的割合が79%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートにおいて、「主体的に地域貢献活動に参加している」「地域と協力して取り組んでいる」の生徒の肯定的割合が80%を超えている。 年度末にルーブリック評価の「地域文化理解力」の3学年のレベル平均値が3以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もボランティア募集のチラシは全校生徒に配布し、クラスには掲示用に大きなものを準備し、周知徹底をはかる。 今年度も各ボランティア活動でGROW UPシートを活用し、社会貢献活動への意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートの「主体的に地域貢献活動に参加している」「地域と協力して取り組んでいる」の生徒の肯定的割合は63%であった。 ルーブリック評価「地域文化理解力」の3学年のレベル平均値は3.0であった。 ボランティア活動への参加状況は、昨年とほぼ変わらないが、参加する生徒は、ほぼ同じ生徒になってきている。 	B		地域連携室	
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は全学年西行賞に応募し、1・3年生からそれぞれ特別賞をいただいた。西行賞への応募はR5年度で3年連続しての試みとなるが、その他の地域の教育資源の活かし方については模索中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、西行賞やコーラージュ川柳に取り組み、地域の文化や芸術に親しむ姿勢を育てる。 2年生は、西行賞やおかやまマラソン川柳など地元のもの複数から選んで一つに参加する。 3年生は、ののちゃん作文や新聞を用いたコーラージュ川柳を行い、地域の文化や芸術に親しむ姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 西行賞への応募とコーラージュ川柳の作成などは2学期を中心に行う。 ののちゃん作文は国語表現の中で毎授業行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価にあるように、当初の目標はおおむね達成できている。 西行賞（2学期）とは違う時期に活用できる郷土教材（コンテストなど）を探したい。 	B		国語科	
<ul style="list-style-type: none"> 公民科では玉野市選挙管理委員会と連携した主権者教育を実施している。 その他の教育資源を活かした授業づくりは検討できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理総合の単元の防災分野において、単元自然環境と防災の分野での地域の教育資源を活かした授業作りを計画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市出前講座の活用等を検討し、3学期の実施を目指して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市出前講座「地域ぐるみの防災セミナー」との連携で2月5日（月）に2年生4クラス合同で防災講座を実施する。防災の単元については2学期に先取りして既習済み。具体的な防災対策について学習予定である。 	B		地歴公民科		
(2) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、地域の教育資源を活かした授業づくりや実習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を活かした授業作りのために具体的なほどのような教育資源を使う事ができるか模索している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を活かした授業作りや演習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な授業実践ができるように計画を進めていく。実践内容を数学科内で共有し次回に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校駅伝の岡山県代表を含むデータを取り上げて学習をした。 玉野市のデータを扱ったものはこれから行っていく。 授業で地域の教育資源を活かすことは難しい面があるが、今後も検討して取り入れていきたい。 	B		数学科	
	<ul style="list-style-type: none"> 玉野地区および児島地区は瀬戸内海に面しており、温暖な気候と輸送における立地条件の良さから塩作り・ジーンズの町として発展してきた。さらに「八浜」「児島」の名の通り、昔は現在よりも海との関係が深かったことの認識に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段着用しているジーンズについて、他の繊維との違いや特徴を理解する。 身近な地名も長い時間をかけて形成されてきたことを驚きをもって理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維については、糸の製造過程や染色について教科書およびパンフレットなどを参考に図示しながら特徴を説明する。 「八浜」および「児島」については、古地図を用いながら地形のでき方について深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 古地図上の児島をはじめ瀬戸内海の形成について学習することで、玉野市が日本有数の地盤の弱い場所であることを理解させた。能登半島地震の発生により、地震について生徒から多くの質問を受けている。 	B		理科	
	<ul style="list-style-type: none"> 現状では地域との関連付けが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健を通して地域の現状を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の健康、環境等を知り、個人として何ができるかなどを取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目の特性として、地域関連が難しかったが、環境問題等でアプローチをしていきたい。 	B		体育保健科	
	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市のグローバル人材育成事業により、週1回ALTが派遣されることになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする態度が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内であいさつや道案内、あいづちなどの日常生活でよく使う表現を学習させる。 ALTと簡単な英語を使ってやり取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年、1ヶ月に1回程度ALTとの授業を確保し、簡単な英語を使ってALTやクラスメイトと積極的にやり取りすることができた。 	B		英語科	
	<ul style="list-style-type: none"> 岡山市内から通学している生徒が多く、玉野市の特産品などについてあまり知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市の特産品について興味関心をもち、自分で調べて調理実習で作ってみたいという意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市のグルメの温玉めしや野菜たくさんスープや紫芋を使ったお菓子など、調理実習に取り入れて玉野市の地域の特産物を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> よい時期に計画的に調理実習をすることができた。玉野市の特産品を身近に感じることができた。夏休みの課題で、温玉めしをつくり、家庭に提供した生徒もいた。 	A		家庭科	
	<ul style="list-style-type: none"> 本校機械科では授業実習において地域で学ぶ土壌があるのでその環境を生かした授業実習の実践を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までに実践している授業実習において地域文化理解力のレベル3以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業と結びつけた授業展開や実習を行っていく。 三井E&S、宮原製作所、精電社等と連携し力を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域企業と連携して協賛を募りロボットコンテストへ出場し、返礼品ベンチを作成し地域企業と連携し教育効果のある教育実践を実施できた。 地域企業と連携しトンネル工事や新病院建設現場等の見学実習を実施できた。 	A		工業科	
	<ul style="list-style-type: none"> 現在ビジネス情報科では、「課題研究」において、地域の企業と協力した取り組みを行っている。新教育課程では、1年生から総合的な探究の時間に地域を知る機会があり、それを活かしながら、2年生では「ビジネス実習」で地域の企業と交渉しながら、オンラインショッピングモールを運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材として地域の事例を取り上げるなども含め、全科目において地域の教育資源に目を向け活用し、学校自己評価アンケート「(T-6)地域の人材を活かした授業づくりを行っている」の肯定的回答が90%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究で引き続き地域の企業や人材と連携していく。 各科目において、可能な単元で授業の中で取り上げる事例や題材に地域の題材を取り入れる。 2年のビジネス実習で地域企業に協力をいただき、取材や訪問を通してコミュニケーション力を育成し、ビジネスについて学ぶ。また3年の総合実践ではキッズビジネススタウンたまのや租税教室などで地域と連携をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究「商品開発」で、なかや宗義・NHファミリアーズと商品を開発したり、「生徒商研」で、地域の商店・企業・住民と連携し、玉の輪祭りを実施した。 2年生のビジネス実習で5社と契約し、企業訪問や取材、授業へのオブザーバとして企業の方に参加していただき教えていただいている。 学校自己評価アンケート「(T-6)地域の人材を活かした授業づくりを行っている」の肯定的回答が88%であった。 	B		商業科	
	(3) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、GROW UPシート活用した教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に活動する場面として、図書委員の活動やオープンスクールの補助員などがあげられる。コロナ禍以前では出前授業への参加もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動する場面をとらえ、GROW UPシートを活用する。ルーブリック観点レベルをあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員の活動の充実する。 オープンスクールへの生徒の参加をさせる。 出前授業への生徒の参加をさせる。 ※以上の活動でGROW UPシートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度、図書委員活動の充実を図り、学級文庫の設置やリマリアの企画に取り組んだ。生徒は積極的に活動に取り組み、どちらの企画も好評であった。 行事に参加した生徒の多くは、Growthシート「人間関係形成力」が4に到達した。 機械科の生徒も出前授業に参加することができ、機械科・ビジネス情報科の両科の特徵など先輩の生の声を聞くことができた。 	A		総務課
		<ul style="list-style-type: none"> GROW UPシートは、コロナ禍で多くの校外での行事が中止・縮小となり、また活用に向けてのPRもなかったため、授業以外ではあまり活用されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 育成したい資質・能力を図るためにGROW UPシートを活用した教員の割合が60%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業でGROW UPシートを活用できるようにシートを準備する。 集会や教室掲示などで「学習のスタンダード」ができるよう促す。 生徒にアンケートを実施し、その結果をもとに、対策を考え喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や職員朝礼でGROW UPシートの活用を促すことにより、利用した教員の割合(肯定的意見)は63%となった。また、「学習のスタンダード」は教室掲示などで促すことができたため、どの項目も肯定的意見が68%を超えていた。 途中から活動報告書を活用できるようになったときもある。 	B		教務課
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒会三役と執行委員で生徒会活動を主体的に行おうとしている現状である。 同学年だけでしかコミュニケーションが取れず、数名だけが仕事をしている状況があり、意欲をもって生徒会に入ったものの力を発揮できていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性の伸長を意図した学校行事や委員会活動を行う。 定期的に生徒会執行部にアンケートを行い、人間関係形成力・課題発見解決力の数値を1ずつ伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事に向けての事前準備を充実させ、机上リハなどを通じて生徒が自ら気づくことができ、問題点や解決策を共有しながら話し合いを行う。 取り組みごとに反省会を行い、PDCA（計画・実施・確認・改善）の考えを基本に報告・連絡・相談を密にして活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期と3学期のアンケートを比較すると、人間関係形成力が2.9→4に、課題発見解決力が2.5→3.5になった。どちらの項目も1以上伸ばすことが出来た。 	A		生徒指導
<ul style="list-style-type: none"> 未束手帳を日頃の生徒自らが活動記録に使うように指導しているが、現状はあまり活用されているとは言えない。 生徒自らが活動した記録から自己分析させ、本校のルーブリックで示した9つの資質能力のレベルを意識した振り返りや自己分析に活用するためには、具体的な手立てが必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 進路評価について、何をどのように評価するかを整理し、明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が1年生から進路への意識を持たせるための活動報告書を提出させる仕組みを作る。 生徒が活動を記録し、活動報告書を生徒が主体的に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動の記録から生徒自身に振り返る機会を与え、自己の向上を意識させる目的を持って、継続的に取り組める仕組みとなっている生徒もいる。 生徒の主体的な取り組みを重視したいが、そのことにこだわれば、一部の生徒に取り組みが限られてしまうことが、問題点ともなっている。 	B		進路指導課	
<ul style="list-style-type: none"> 今年度入学した生徒以外は1年生の時に、LHRで性感染症に関する授業を行っており、多くの生徒が理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> 性教育に関する知識を習得するために必要な学習習慣が身に付いており、課題に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2、3年生に対し、事前にCoCoLoのGROW UPシートを活用し現状を確認する。性教育講演会を実施する。講演会后にGROW UPシートに取り組み確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期川崎医療福祉大学の先生に來校いただき、性に関する正しい知識を教えてください。自己決定能力の向上、および責任を持った行動についての講演をいただいた。また、性についての悩みや被害などで困っている場合、身近な相談窓口につながる方法を知ることができた。 2学期は各学年、クラスLHRを通して、発達段階に応じた、性に関する知識を得ることができた。 	B		保健厚生課	
<ul style="list-style-type: none"> 機械科の多くの生徒が、自身の教育活動とGROW UPシートをタイアップさせて考えることができていない。企業実習でのGROW UPシートの活用が不十分である。 		<ul style="list-style-type: none"> 企業実習においてGROW UPシートを用いて振り返りを実践していき人間関係形成力のレベル3をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業実習後の振り返りにGROW UPシートの活用を実践していきCoCoLoの鍛錬を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業実習で実習だけではなく座談会等を実施することができ、GROW UPシートを用いた振り返りでは人間関係形成力平均レベル3以上を達成できた。 	B		工業科	
<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は課題研究の一部の講座でGROW UPシートの活用を行っていたが、まだ全ての講座では活用ができていない。 総合実践では全員がGROW UPシートを活用して取り組むことができていないが、その他の科目においてはなかなか活用ができていない。 		<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の全ての講座においてGROW UPシートを活用して取り組み、年度末において「人間関係形成力」「知識力」の達成レベル平均値が3.5を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究では、全ての講座においてGROW UPシートを活用して計画的に目標を設定し取り組ませる。 他の科目においても、可能な単元でGROW UPシートを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の講座においてGROW UPシートを活用して取り組んだ。全講座の達成レベル平均値は「人間関係形成力」が3.8、「知識力」が3.4であった。 	B		商業科	

令和5年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標							
1 どのように学ぶか							
(4) キャリアデザインのために、新規企画による「Newキッズビジネスタウンたまの」づくり（街（タウン）創造プログラム実施に向けて）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> キッズビジネスタウンで新たな取組を実践できる環境が整備された。課題研究や授業で実践している内容の発展で今年度のキッズを行う予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究や授業実習でキッズの準備をすすめていき、ものづくりを通して創造力のレベル3まで達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究でキッズのノベルティ製作を行う。 5インチゲージ（軌間が5インチの乗用の鉄道模型）ロボット製作を行い、キッズで子ども達が利用できるようにする。 ラジコン、模型もの作りでキッズで実施できる内容の準備を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たにロボットブースを新設し、消費活動ブースの運営ができた。 三井E&Sと連携し新たに企業ブース（ものづくりガチャガチャ）を新設し運営ができた。 課題研究と連動させることで学校での学びとものづくりがキッズと連動させることができた。 	A		工業科
	<ul style="list-style-type: none"> キッズビジネスタウンたまのは昨年度3年ぶりに開催したが、コロナ禍のため半日交代で飲食ブースのないものとなった。昨年度の実施により課題等も見えてきたため、その内容を活かして今年度に取り組み。 昨年度はGROW UPシートの「人間関係形成力」はレベル平均値3.6と4に近いが、「創造力」が3.1とやや伸び悩んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践の授業において、新たな改良をしたり新しいものを企画・実行し、年度末において、GROW UPシートの「創造力」の達成レベル平均値が3.2を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践で、今までのキッズビジネスタウンたまのについて知り、昨年度の振り返りや反省をもとに改善方法を考える。 昨年度「創造力」のレベル平均値が低かったため、担当ブースごとに、生徒主体で何か少しでも新たに改良したり、新たな企画に具体的に取り組めるようにコーディネートする。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践の授業において、ブースの新設はなかったが、過去の取り組みを活かしつつ、新たな改良や内容の刷新を、生徒が主体的に企画・準備して実施できた。 昨年の課題であった場内案内についても改善を試み、来場者アンケートで昨年度より良くなったという意見も多かった。 振り返りではGROW UPシート「創造力」のレベル平均値は3.3となった。 	A		商業科
(5) キャリアデザインのために、企業見学や学校訪問を通じたキャリアデザインの構築を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通して、1年生から段階的に進路に必要な知識や経験を企業訪問や学校訪問を通して進路情報を幅広く学習する機会が必要である。 また、企業現場や進学先現場での情報には、視覚的体験的な情報を得られる機会を確保し、生徒にとってよりの確かな情報を与えられる機会が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生では、7月に進路ガイダンスを実施、12月には大学企業訪問を実施する。2年生でも同様に実施内容と実施時期を計画し、7月と12月とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生では、7月に進路ガイダンスを実施、12月には大学企業訪問を実施する。2年生でも同様に実施内容と実施時期を計画し、7月と12月とする。生徒の進路活動の機会を確保し、生徒の活動報告書として提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通して生徒のキャリアデザインを意識させるための企業訪問や学校訪問だけでなくなどを企画実施できたことは、生徒自身が進路希望先を具体的に考えるきっかけともなり、生徒にキャリアデザインを意識させる取り組みともつながった。 学年ごとに生徒のキャリアデザインを意識させるような段階的、体験的な取り組みを継続させる必要がある。 	B		進路指導課
(6) 学びに向かう姿勢を養うために、Googleworkspaceの活用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がchromebookを持っている学年では、意見交換や相互評価のための利用をしており、目新しさやフィードバックの速さで生徒の意欲をひきだすことができた。一方で、生徒の使用上のモラルに課題もあり、活用しきれっていない状況もある。日常的な活用を目指しつつ同時に目新しさ以外で効果を生む使い方を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業理解や、コミュニケーションツールとしてGoogleworkspaceを活用していきながら、各科目での効果的な使い方を模索する。使用頻度の目安は、各学年で毎月2、3回の使用を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目で実践したGoogleworkspaceの活用方法を定期的に共有し、互いの授業に活かせるようにする。目安は学期に一度。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標とする頻度は達成できた。 スライドを使った表現活動や、jamboardを使った読解など効果的な活用方法を検討し、共有することができた。 	A		国語科
	<ul style="list-style-type: none"> 地歴公民の教科では基本的に毎時間授業で活用している。振り返りや、相互の意見共感等での活用ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な授業理解に活用し、授業評価で、Googleworkspaceの活用により、授業理解が深まった(肯定的)意見の生徒が60%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを活用しての小テスト、課題配信、レポート作成等、授業内での討論に活用するなどの使用を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生については目標以上の成果を得た。（現代社会：肯定的評価98%/地理総合：100%）特に3年生（現代社会）では小テストの反復学習に効果があり、2年生（地理総合）では協働的な調査や発表に学習効果がみられた。共に毎時間活用することができた。次年度は1年生の授業（公共）での活用を検討・研究していく。【数値資料：授業アンケートより】 	A		地歴公民科
	<ul style="list-style-type: none"> 現状では授業は黒板を使っての一言授業が主であり、Chromebookの活用はほとんどできていない。Chromebookは生徒への連絡、欠席した生徒へのリモート授業の配信等に利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの利用頻度を増やし、授業での理解を深める活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な授業実践ができるように計画を進めていく。実践内容を数学科内で共有し次回に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを授業や課題連絡、アンケート等に活用できた。 QRコードを読み込ませ、ドリル式学習を行った。 今後もChromebookの活用方法を考えていきたい。 	B		数学科
	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容及びNHK高校講座を利用する場合にChromebookを利用してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習において、インターネットなどを利用して調べた内容を意味不明のまま写すだけでなく、少しでも消化したものが提出できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容に関するタイムリーなものを写真や動画にして、旬として扱うだけでなくリアル感が感じられるように工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震のメカニズムや気象など教科書の説明文や写真からでは得られない情報を動画を利用することにより、実際に起こっているリアル感から説明することができた。 	B		理科
	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを活用し課題を提出。授業の確認等を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの場面で活用し、振り返りで実技の確認や内容の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で生徒同士で動きの確認（体育実技）や、調べ学習（玉野市の健康・環境等）に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育での活用を活発にして、生徒自身で確認等PDCAサイクルで活用したい。保健では玉野の環境問題を取り上げていきたい。 	B		保健体
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へ連絡したり、欠席した生徒に授業のポイントをまとめた資料を配信したりする際にClassroomを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> スライドの画像や動画・音声などの情報から、英語や海外の文化に興味を持つようになる。 Classroomの連絡をきちんと確認し、期限内に課題を提出できている。 	<ul style="list-style-type: none"> Lessonの内容理解に役立つ背景知識などを提示する。 Classroomを使って生徒への連絡や課題を配信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、Chromebookを必要に応じて活用することができた。他教科での活用方法も参考にしていきたい。 	B		英語科
	<ul style="list-style-type: none"> 7割の生徒は教科書などの忘れ物がなく、授業を受けることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記入が毎時間丁寧にできている。忘れ物がなく授業を受けることができています。グループワークを取り入れて意欲的に学びに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を明確にノートに記入させて、終業時5分前にはまとめの時間をとり、知識理解を深める。Chromebookを使い、ビジュアル的に体験的にわかりやすく伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初と比較しても宿題をする生徒が6割から8割に増えた。授業プリントも9割の生徒が提出し、授業に参加している。 	A		家庭科
	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを用いた授業実践や検定指導を実施することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度購入したスマートグラスとWi-Fiルーターを用いて三井実習、宮原実習で授業展開をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fiルーターを用いて学校外でもオンラインに接続しChromebookを用いて実習先でも活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校外の実習でWi-Fiルーターを用いてオンラインに接続し、Chromebookを用いた授業・実習の実践ができた。 	B		工業科
<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は、課題の提出や小テストが多かったが、ドライブを活用したデータ活用や、JamBoardを使ってのグループワーク、本時の目標や事前準備の提示、振り返りなど、授業内容に応じて工夫されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目においてGoogleworkspaceの活用方法を研究実践し、学校自己評価アンケート「(T-12) 授業でChromebookを活用するなど、ICT機器を積極的に活用している」の肯定的回答が95%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において科目主任を中心にGoogleworkspaceを活用する場面や単元を話し合い、実践する。 教員間でGoogleworkspaceの活用事例を共有したり、授業見学をすることで、より良い活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、活用を工夫しており、肯定的回答は100%であった。 ビジネス実習では、各班ごとにスプレッドシートを作成し、業務の進捗状況を共有したり、それぞれの制作物や内容を報告している。 課題研究生徒商研で、玉の輪祭りの準備運営へ向け、全体の課題や活動の共有をしながら、課題解決の提案を行ったり各自が判断して行動して進めた。 	A		商業科	

令和5年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標							
1 どのように学ぶか							
(7)学びに向かう姿勢を養うために、未来手帳の活用（自己成長のマネジメント）を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度学校生活アンケート（11月）において、「日々の予定を毎日見直している」の否定的回答（あまりできていない、まったくできていない）が20.9%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の生徒が、未来手帳の積極的な活用ができていない（「日々の予定を毎日見直している」の否定的回答が15%以下になる）。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、年度当初数日間かけて、行事予定を未来手帳へ書き写させる。また、SHR時の基本姿勢として、始まるまでに未来手帳を開いてメモをとる準備の習慣化を図る。 SHRや授業、集会などあらゆる場面で未来手帳の活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回学校生活アンケート（11月）において、「日々の予定を毎日見直している」の否定的回答が31.1%で、積極的に活用できている生徒が7割に達しなかった。学年別では1年生が25.6%、2年生が39.8%、3年生が27.2%であった。引き続き学校生活全般を通じて、根気強く指導をしていくことが必要である。 	C		生徒指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の見直しを持って、学校での諸活動に取り組み記録として生徒が持っている未来手帳を活用するよう指導しているが、十分活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間9回、生徒一人につき9枚の活動報告書が進路ファイルにファイリングされる。 	<ul style="list-style-type: none"> 未来手帳に何を記録するのかを示す。1年間を一定の期間に区切り、未来手帳を活用して記録したものをもとに生徒に活動報告書を作成させ、提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間を通して活動記録を期間毎に分け、それぞれの期間毎に活動報告書提出日を設けた。このやり方が、定期的な生徒の活動記録につながった面もあった。また、生徒たちに呼びかける機会ともなり、継続させる仕組みともなったことは、評価できる。 「活動報告書」の提出率を上げるためには、生徒一人ひとりの進路意識をより高めさせるための仕掛けが必要がある。 	B		進路指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 入学して間もないため、未来手帳を持って行動できているが、まだ、どのように活用していけばいいか、わかっていない生徒もいるようである。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「(S-4)未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている」を60%以上達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会や授業など、移動教室の際には未来手帳を必ず持っていくようにさせる。 平日頃から、メモをとる習慣をつけさせる。 カレンダーを利用し、スケジュールの管理ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートの「未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている。」の項目で61.4%の生徒が当てはまるという結果であった。体育館での行事や日常的な時間割変更などの情報を記入するなどの姿がみられた。さまざまな面で、声かけ等の指導をし、60%という数値は超えたが、全体を見るとまだ指導が必要な面もある。 	B		1年 回
	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の学校自己評価アンケート最終結果では、「(S-4)未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている」の項目は、71.8%の生徒が当てはまると回答した。 未来手帳を持ち歩く習慣が身につけている生徒が多いが、そもそも未来手帳を持ってきていない生徒もいる。 活用方法については個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「(S-4)未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている」を75%以上達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 未来手帳を常に持ち歩くように呼びかける。 SHRや集会などで、まずは手帳を準備できているかの確認をする。可能な限りメモをとる練習を行う。 進路行事、インターンシップ、修学旅行などの2年生は重要な行事が多い。スケジュールを記入し計画を立てる。メモをとり見直すよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート（12月）実施。「未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている。」の項目で58%の生徒が当てはまるという結果であった。目標の75%を下回った。集会などで声をかけるとメモをとる姿は見られた、しかし、Chromebookをメモとして利用する姿も見られたため、それらを含めると目標には達しないが近い値になると思われる。メモだけでなく、日頃から計画的に予定を立てることなど3年へ向けて再度意識をさせていきたい。 	B		2年 回
	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の最終結果では、74%の生徒が当てはまると回答した。 未来手帳を持ち歩き、積極的に活用する習慣が身につけている生徒もいるが、そもそも未来手帳を持ってきていない生徒もいる。 昨年度学年として記入する機会を設けることができたが、自主的な活用については個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「(S-4)未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている」を80%以上達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期始めに「未来手帳の記入」の時間を設け、目標・日程・各学期の目標を書かせる時間を設ける(2年次より継続) 普段から未来手帳を携帯させ、課題提出日、進路に関わるスケジュール管理をさせるよう徹底して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートの「未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている。」の項目で69.2%の生徒が当てはまるという結果であった。学年としての取り組みに加え、進路活動や学校行事等を通じて未来手帳を具体的に活用する生徒の姿が多く見られた。しかし、アンケート結果からも残り30%へ浸透させることが難しかった。 	C		3年 回

令和5年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標							
2 実施するために何か必要か							
(1) 連携・協働を支えるICT環境の整備・活用（Chromebook、デジタルサイネージ等）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でICT環境の整備が急速に進んでいる。デジタルサイネージ、Googleworkspace、アイデアハブ、WiFi環境が整備された。また、GIGAスクール構想がはじまり3年目をむかえ、Chromebookが3学年揃う形となった。 デジタルサイネージによる連絡や行事の中継は充実しているが、スイッチャーやHDMI中継器などは個人持込によるものを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用に関する先生方対象の研修を3回実施する。 デジタルサイネージの基本的な機器は揃っているが、カメラの切り替えやスライドの送信などを可能にする「スイッチャー」と長距離のHDMI送信のために「HDMI中継器」が必要である。またカメラマイクが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用に関する先生方対象の研修を6月11月（公開授業週間）と県教育センターによる研修支援を活用した研修を実施する。 デジタルサイネージを使った行事・集会の充実のため機器の充実のため事務の方に交渉していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県教育庁の先生をお迎えした研修の他、ICT活用推進リーダー研修や教科に関する研修など、校外で行われた研修を伝達する研修を実施し、ICT活用スキルの向上に努めた。 6月、11月の公開授業週間で実施した授業では、ChromebookをはじめICT機器を有効に利用した授業が多く紹介され、参観した先生方から「参考になった」という感想が多く聞かれた。 	B		総務課
(2) 総合的な探究の時間委員会の活性化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生は、総合的な探究の時間を週1時間行っている。 学校自己評価アンケート「総合的な探究の時間の学習内容を理解しており、授業準備に取り組んでいる」の肯定的割合は91%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回委員会を開催する。 学校自己評価アンケート「総合的な探究の時間の学習内容を理解しており、授業準備に取り組んでいる」の肯定的割合が95%を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施においては、学年ごとに会議を開き、内容を周知徹底する。 各学年主任を中心として、各クラス担任が運営できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の委員会は開けていない。学年ごとの共有は図れていた。 学校自己評価アンケート「総合的な探究の時間の学習内容を理解しており、授業準備に取り組んでいる」の肯定的割合が79%であった。 	C		総務委員会
(3) 安全かつ快適な学校生活づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒がマナーを守って、駐輪場を使用できている。しかし、指定場所以外に駐輪したり、ごみを放置する生徒も一部いる。 二重ロックなど防犯対策ができていない自転車がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐輪場の環境整備ができており、マナーを守って使用できる。 二重ロック点検、駐輪場の清掃活動のいずれかを隔週、昼休憩時に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> より主体的な活動になるように、交通自治委員会の活動を行う。 交通自治委員会の二重ロック点検をする。 交通安全、マナー向上啓発ポスターの作成、掲示をする。 自転車置き場の清掃をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通委員によるマナー啓発活動や自転車点検を定期的に行うことができた。 駐輪場の環境整備はおおむねできていた。 	B		生徒指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対応マニュアルはあるが具体的な指示が明示されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対応指示カードを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業までに指示カードを作成し夏季休業中に緊急対応訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度に向けて緊急対応訓練の計画を立てたい。 	A		保健課

令和5年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標							
3 生徒にどのように支援するか							
(1)「人間関係形成力・知識力」の育成を目指した教育活動を行う。	・ネットを利用する機会が増え、フィルター・バブルや確認バイアスが働き、多様な情報に触れる機会が極端に少なくなっている。	・ルーブリックの「人間関係形成力」を「3. 仲間以外と協力することができる」を目指す。 ・今まで学習した知識を活用し、オープンスクールを成功させ、「知識力」を「4. 他教科（オプスクール）で活用できる。」を目指す。	・8/3に実施するオープンスクールでは、生徒が先生役となり中学生に高校の授業を紹介することで、教員と授業内容を共有し、中学生に対して適切なコミュニケーションを実践する。 ・図書委員会の活動として、カウンター当番をはじめ蔵書整理や朝読書の企画運営を担当教諭と協力し活動する。 ・出前授業の生徒の参加を通して学習した知識を活用する。	・8/3に実施したオープンスクールでは、本校生徒が主体となり、参加した中学生に高校の授業で学んだ知識を使って授業を行った。実施後の中学生のアンケートからも、好意的な意見が多く寄せられた。また、参加した生徒も、この経験をすることで、人前で話す自信がついたという感想が見られた。 ・出前授業に参加した生徒の中には、緊張や恥ずかしさから積極的にできなかったが、自分の体験や高校生活の中で身に付けた事柄を中学生に自信をもって発表できるようになった。	B		総務課
	・コロナ禍で学校行事がなくなり人間関係形成力や知識力の育成を目指した授業が高く求められる。	・授業改善に向けて、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、人間関係形成力・知識力を育成する指導が70%以上となる。	・教員へ対するアンケートが実施できるように準備をする。 ・集会や教室掲示などで「学習のスタンダード」ができるよう促す。 ・生徒にアンケートを実施し、その結果をもとに、対策を考え喚起する。	・授業改善に向けて、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、人間関係形成力・他者理解力を育成する指導ができた割合は93%となった。また、「学習のスタンダード」は教室掲示などで促すことができたためとの項目も肯定的意見が68%を超えていた。	B		教務課
	・学校での諸活動の積み重ねが、3年生においての具体的な進路活動に活かされることが生徒たちに理解されていない現状が見られる。 ・生徒の活動の実績が十分把握されず、進路指導に活用されていない現状がある。	・今年度重点目標として学校活動から1つ選び、継続的に未来手帳に記録し、学校での諸活動に参加と取り組みの実績を活動報告書として提出させる。生徒一人につき年間9回提出する機会があり、9枚進路ファイルに綴じることになるが、5枚以上はこなすことができる。	・生徒の活動の実績が十分把握され、進路指導に活用されるようになるため、生徒から提出される活動報告書を生徒との面談の際など進路指導に活用する。	・生徒が学校活動に主体的に取り組みの機会を増やそうとする意識を生徒に持たせる手段として「活動報告書」への記録とその提出を考えた。現在まで全校生徒の30%弱の生徒は、自らが主体的に取り組みしている状況にある。させる方向ではなく自らがする状況につながるものとなっている。	B		進路指導
	・コロナ禍から受診控えやう歯罹り率が増加している。	・保健委員が保健指導をできるようにする。	・学期に1回以上の啓発活動をおこなう。 ・未治療者対象に保健指導をおこなう。	・学期に1回以上の啓発活動が実施できた。 ・雄心祭展示、保健新聞に加え、保健委員おみくじ&壁新聞という生徒発案の活動もかたちになってきた。	B		保健課
	・入学して間がないため、データ等もないため、検証は難しい。 ・「人間関係形成力」や「知識力」については、苦手としている生徒も多いと思われる。	・ルーブリック「人間関係形成力」「知識力」の項目を、80%以上の生徒がレベル2以上を達成する。	・授業や各種検定に自分から取り組める姿勢を身に付けさせる。 ・校内の行事を通して、他者と関わりの中から協力する力を身に付けさせる。 ・将来を考えさせる上で、礼儀やマナーの大切さを教え、自分から実践できるようにさせる。	・学年独自のルーブリック調査により、人間関係形成力のレベル2以上は98%、知識力は97%であった。年度当初は人間関係形成力の項目もレベル2以上は98%前後であったが、知識力は80%程度であった。生徒自身は1年生では、入学してから授業や各行事などの活動を通して、新しい人間関係を築いていくことができていると感じているようである。また、授業や課題への取り組み、検定への挑戦を通して、知識が定着してきていると感じているようである。今後指導をしていきたい項目がある。	B		1年団
・「人間関係形成力」については、前年度の最終結果(学年独自アンケート)ではほぼ100%の生徒がレベル2以上を達成した。 ・「知識力」については、学習習慣が身につけている生徒と、日々の課題などに追われる生徒との差が大きい。	・ルーブリック「人間関係形成力」「知識力」の項目を、80%以上の生徒がレベル2、5以上を達成する。	・学校行事やインターンシップ、修学旅行などの行事を通じて、異年齢、校内外の多様な年齢層と関わる機会を活用する。 ・授業や課題、各種検定などの意味を考えさせ、主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。 ・学習の支援が必要な生徒に関して、教職員間での情報共有を密に行い、適宜必要な支援や助言をおこなう。	・学年独自ルーブリック評価アンケートを1月初旬に実施。 ●レベル平均2.5以上96% ●人間関係形成力…レベル3以上：72%（年度当初38%） ●知識力…レベル3以上：66%（年度当初37%） ・人間関係形成力については、授業や学校行事、また2年生はインターンシップやビジネス実習など外部での活動も多かったため成長できた実感できた生徒が多かった。言葉遣いやメモをとるなど、これまで指導されていたことの必要性を実感できたようである。しかし、知識力に関しては、学習や課題に取り組む習慣がまだ身につけていない生徒が4割近くある。	B		2年団	
・「人間関係形成力」については、前年度の最終結果(学年独自アンケート)では学年平均3.6であった。 ・「知識力」については、学習習慣が身につけている生徒と、日々の課題を出すことで精一杯の生徒との差が大きい。大半の生徒は進路実現に向けて学習が必要な事は認識できているが、具体的手立てや、進路先決定後の課題設定にまでは至っていない。	・ルーブリック「人間関係形成力」「知識力」の項目を、80%以上の生徒がレベル3以上を達成する。	・日常生活や学校行事を通して、最高学年としての自覚と責任を持ち、様々な立場の人との協力関係を持つことができるよう意識させる指導を行う。 ・進路実現に向けて、学校の学習に向けて自主的に取り組ませるとともに、それぞれの進路先に向けて各自が必要な課題を認識する事ができるよう個別の指導・助言を行う。	・「人間関係形成力」ルーブリック評価3以上：98%、（年度当初3以上60.9%）生徒は最高学年として主体的に取り組んだ学校行事、進路活動、専門教科での地域と連携した学習、ボランティア活動等を通じて力を付けることができたとう覚している。 ・「知識力」ルーブリック評価3以上：84.3%（年度当初3以上41.7%）社会に興味を持ち、もっと広い分野に関心を持ちたい/視野が広がった/就職試験に向けての期間で成長した/等教科横断的な知識を持つことの重要性を自覚し、その意義を見出している生徒もいる。【参考資料：学年独自ルーブリック評価アンケート より】	A		3年団	
(1)「人間関係形成力・知識力」の育成を目指した教育活動を行う。	・個人差はあるが、人間関係形成力・知識力の弱い生徒が一定数いて、本人も周囲も困っている場合が散見される。いろいろな原因が考えられるが、語彙の乏しさも一因であろう。三年間を通して漢字を学び語彙を増やす指導を行っているが、これは引き続き必要であると考えられる。	・言葉の使い方で、自分の印象が変わることを理解させ、まずは、よりよい表現を知ることを目指す。授業の中でプリントなどを用いて生徒に知らせる。また、文章を読むことで、いろいろな人がいて、いろいろな考え方があることを知る。小説等の文章を読んだ後、登場人物や筆者の気持ちを短文でまとめる課題に全員が取り組む。	・漢字の指導を継続して行う。言葉を学ぶプリントや課題を作ったり、年間のどこかで、扱う文章の中で、登場人物や筆者の意見を考えさせる課題を扱う。	・中間評価で挙げた内容に加え、1年生では「お〜いお茶新俳句大賞」にも挑戦し、語彙や表現を豊かにした。 ・各学年で漢字の指導を継続しているが、真面目に取り組む語彙を増やした生徒、非常に未熟な生徒が混在しており、更なる取り組みが必要である。	B		国語科
	・人間関係形成力・知識力共に力不足の生徒が一定数いる。学年が上がるにつれて、授業の中での話し合いはできるようになっている。 ・知識力を伸ばすための手段を理解できていない、課題を計画的に提出できない生徒は一定数いる。	・3年生 学年末授業アンケートで人間関係形成力・知識力に関係する項目がレベル3を達成する生徒が全体の60%以上とする。	・それぞれの教科のなかで、対話を重視した授業を単元を通して計画する。 ・知識力・学習習慣を身につける為の具体的なアドバイスを実施する。	・【授業を通して人間関係形成力が向上した】肯定的評価95%、【授業を通して知識力が付いた】肯定的評価100%（2学期末3年生対象授業評価より） 他学年での授業評価も次年度以降は順次取っていき、3学年全体で教科として学校目標を達成できるように授業実践に取り組んでいきたい。	A		地歴科 公民
	・授業において問題演習での教え合い、グループ学習などを実施している。	・考える過程で他者と関わることで主体的・対話的で深い学びができ、「できた」「解けた」「分かった」と感じることができる。 ・アンケートを実施して、肯定的回答が60%を超えている。	・授業で、次の①～④のうち1つ以上実施することを目指す。 ①グループ（ペア）ワーク・学び合い、または教え合いをさせる。 ②数式だけではなく、ICT機器の利用または図を使って示す。 ③日常で使われている数学を紹介する。 ④「なぜ」「どうして」の質問を投げかけ、説明させる。	・授業で問題演習の時間を確保し、考えさせることができた。 ・自己評価（中間）の内容を継続して実施した。 ・来年度は、生徒が意欲的に取り組み理解できる形を作っていくたい。	B		数学科
	・実験実習を通して、お互いの協力で操作については実現できた。実験実習において、実験結果から何がわかるか等意見交換を行う機会を設けることができなかった。	・実験実習の結果や与えられた資料からどのようなことがわかったのか話し合いの中から一定の方向性を見いだせる力を養う。	・実験実習プリントの設問の中にグループで話し合った内容が記入できる項目を設ける。できれば、発表できる時間を設ける。正解・不正解は問わない。	・理科室での座席を、これまでの1机に1人から2人に変更することにより、お互いの意見が出しやすくなった。	B		理科
	・日頃より、選択科目等を通し、お互いの会話等が行われている。	・男女間を問わず多くの友人と触れ合い、自主研鑽するとともに、各種目の特性を知る。 ・体育の授業が「楽しい」を85%以上にする。	・多くの種目メンバーの入れ替え等で生徒同士の接する時間会話する時間を多く設け、けがに対する知識もより多く取り入れる。	・生徒が他者と関わりながら、楽しくスポーツを学ぶことができる環境づくりに努める。そのために、目標設定やPT、ICT機器の活用など、様々な工夫を取り入れながら授業を展開していきたい。	B		保健課 体育
	・ペアでの音読活動には多くの生徒が取り組んでいるが、自己表現を苦手とする生徒もいる。 ・既習内容を着実に定着させている生徒もいるが、中学校で学習する単語や文法の知識が身につけていない生徒が多い。	・クラスメイトと英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身につけている。 ・基本的な英単語や学習した文法事項を使って表現することができる。	・各Lessonごとにペアで音読練習をする。 ・英語の簡単なゲームやクイズにペアやグループで協力して取り組ませる。 ・パターンプラクティスを通して英文読解や文法理解に取り組ませる。 ・単語帳を活用し、考查毎に単語の問題を出題する。	・授業内で生徒が英語を使う時間を確保することができた。 ・来年度は、基礎力の向上を目指し、様々なツールを用いた指導方法を模索していきたい。	B		英語科
	・座学においては個人での学びが中心となっている。教室でのグループ活動が少ない。	・実習等の体験的な学習では意欲的に取り組むことができ、さらには周囲のクラスメイトを助けることができる。	・実習内容を具体的にわかりやすく、生徒に伝える。早くできた人が同じグループの生徒に声をかけてお互いに助け合い、学び合う授業展開を行う。	・相互協力、共助を深めるため、調理、被服実習では二人一組でお互い、教えあい、協力合せて物事をすすめることができた。優しい生徒が多く、よい雰囲気全員が被服作品をきれいに完成させることができた。	A		家庭科
・授業実習において社会人の方々と関わる機会が多くあり、人間関係形成力と知識力を育む環境が整っているが、生徒に意識付けをさせることが不十分である。	・授業、実習を通じて育む人間関係形成力と知識力の達成レベルをレベル3以上を目標とする。	・企業実習の中で人間関係形成力と知識力を育みたい力として意識付けを行い、企業実習の中でそういった場を設け社会人との関わりの中で力を育ませていく。	・企業実習で実習だけではなく座談会等を実施することができ、GROW UPシートを用いた振り返りでは人間関係形成力・知識力の平均レベル3以上を達成できた。	B		工業科	

令和5年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標							
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、各科目でグループ学習やペアワークを取り入れ、学習するなかで、他者理解や他者への関わり方も学んでいた。例えば、本校に入り検定という目標を全員で共有することで、検定前には、質問したり教えたりということを自発的にできるようになり、他者のことを考えた行動や人間関係作りもできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で商業科としてGROW UPシートを活用し、「人間関係形成力」「知識力」の達成レベル平均値が3.0を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習やペアワークを取り入れたりと、意見を考え発表するなどの言語活動を取り入れて「人間関係形成力」を育成する。 ・課題の提出や授業の予習復習などを通して学習習慣の定着を図り「知識力」を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス実習では、班ごとに進捗状況と本日の取り組みの目標や内容などをミーティングしてから活動することで、人間関係形成力が3.6となった。 ・授業中や課題への取り組み、検定へ向けてなど、お互いに教え合うなどの取り組みが多く場面できていた。課題の提出は各科目で粘り強く指導し、学習習慣や知識の定着を図った。 ・GROW UPシートの活用ができた科目は限られたが、活用した科目を総合した「人間関係形成力」「知識力」の達成レベル平均値は3.5となった。 	B		商業科

令和5年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標							
3 生徒にどのように支援するか							
(2)積極的な生徒指導（いじめ防止推進の取組等）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度学校生活アンケート（11月）において、「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さないという意識がある」の否定的回答が60%であった。 学校生活アンケートのいじめに関する内容について、担任を中心に事実確認を行い、情報を集約した上で必要に応じて適宜指導をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さないという意識がある。」の否定的回答が5%以下となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートの実施を、各学期1回行う。必要に応じて、担任、学年団、教育相談室と情報共有し、対応する。 学校生活全般を通して、いじめ防止のための声かけ、働きかけを継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回学校生活アンケートを11月に実施した。「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さないという意識がある。」の否定的回答は4.0%（1名）であった。引き続き学校生活全般を通して、仲間意識を高めるための働きかけをしていきたい。 	B		生徒指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談室の場所、利用方法が生徒に浸透していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価書の「困ったときに相談できる相手が学校内にいる。子どもについての相談を学校にできている。」の肯定的な評価を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に2回相談室便りを発行する。 通知表発送時に相談室からの文書を同封する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談室便りは来年度も発行したい。 「子どもについての相談を学校にできている。」の肯定的な評価は61%だったが昨年度46%より若干改善することができた。 	B		教育相談室
(3)生徒の主体性の伸長を意図した学校行事や委員会活動	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ではあったが、昨年雄心祭の新たな取り組みとして生徒会執行部主催の【仮装大会】を実施することが出来た。 今年度も生徒会執行部主催の新たな取り組みを行うため、検討を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の運営する一番大きなイベントである雄心祭の事後アンケートを実施し、雄心祭に対しての「楽しい」という肯定的意見が7割を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 雄心祭に向けて生徒を中心に関係各所と連携を取りながら、生徒会の主体的な取り組みを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会として一番大きな行事である雄心祭はトラブルはあったものの成功に終わらせることが出来た。次年度に向けて、雄心祭をどう行うのかも含めて検討を進めていきたい。 	A		生徒指導課